

## 指頭に心眼を開く

### －日本指圧協会・浪越指圧手技の実際－

#### 一．指圧と修業

指圧の治療方法とは難しいもの。『石の上にも三年』という諺がありますが、何にもよらず生活のための商売（業）としていく基礎を学ぶためには、そう簡単なものではなく大変難しいものであります。ですから一旦指圧に志し、“この道を行く”と目標を定めて出発したからには、それを最後まで徹底的に糾明追求し、とことんまでその正しい道程に向かって邁進すべきであります。例えば“新幹線”に乗ったら窓も開けられません。そのまま終着駅まで着くがごとの覚悟が必要であります。『業』とするには、何も指圧に限ったことではなく、二年や三年の修業期間は必要であり、それも決して長い時間とは言えません。また、修得する方法も沢山あって、探求会得の方法によってはもつともつと長時間を要し、場合によってはそれでも核心を掴み得ないで長年月を空費する人もあるかと思えます。

殊に手技療法のような『原始的に単純簡単』で万人が真似できるようなものほどその技術となると難しく、探究や修業をすればするほど奥行が深く拡大無辺であって、人が一生涯掛かって探求してもつくることのない奥深さがあるものと私は信じます。その良い例として、ただ正座または結跏趺坐し軽く目をつむるだけの坐禅のごときがそれであり、追求すればするほど難しくなり生涯実行しても彼岸に到達することが不可能であることと同様であります。

このように一つの方法でも一芸に達するには非常に大変難しいものであり、艱難辛苦・忍耐を経るのは当然であってしかるべきかと思えます。ですからこの日本指圧学校の技術・施術方法にあこがれ、目標を定め学び始めたからには、二～三年はみっちり、とことんまで精神を打ち込んで、やってやってやり抜く気持ちが必要です。とにかく真剣に命を掛けるつもりでやってみることです。それでもしばしば壁に突き当たるであろうし、種々様々の迷いや惑いにも相遇いたします。それでもそれを突き破って進むべきは勿論です。そうしてこそ、素晴らしい僥倖明快な収穫を得るに間違いありません。一口に言ってその道程を真直ぐに、石の上にも三年、おこたりにく実行に移すことあります。これは万事に通ずる言葉であります。そうして、石の上にも三年やってみた結果が、たと思わしくなかつたとしても、何かを掴んでおり損はしなかつたと思うはずで、そこで自分の体質や性格に合わず思わしくなかつたら、それからでも遅くはない、方向転換するもよし、他の様々な方法の中から得心の行くものを

探し求めて進むのもよいと思います。

## 二. 自信のない人ほど、他の手技に走る

基本指圧を満足にやっていない人、またやれない人ほど、指圧学校の基本に対し疑問を抱いたり自信を失い、あの方法この方法と別の方法を見聞するとよく見えるもので、その方法もやってみようかといったように（整体だ、カイロプラクティックだ、オステオパシーだ、何々健康術だといったように）あれもこれもと手を出したがるのです。こういうビジョンに富んだ人ほど、実際に患者を満足させるような施術効果があげられず、患者は指圧を受けてももの足りず、圧してもらいたい所へは手が届かず、指圧を行っても力度や持続時間は零に近い人が多い。そして自分自身でも治しているのか、治る人なのか、効くか効かぬか、何をやっているのか判らなくなってしまうのです。かような道を歩みたがるのは主に初心者、初歩当時に多く、中には種々の長所を着実に身につけていく人も稀にはありましようが、それはほんの一握りにすぎないと思います。また卒業した人で、それだけの経験があれば他の良い所を吸収するのもよいでしょう。しかし、指圧学校『浪越式』の基本をあまりくずし過ぎると、大幹を軽んじて枝葉末節の治療ばかりに傾く傾向がありはしないかと思います。そういう結果となるのも裏返していえば、基本をマスターしていない人達です。

実際に千差万別の患者に対し、満足するような治療を与えるということは非常に難しく、簡単にはできるものではありません。それなのに一年や二年のうちに、あちらこちらの方法と様々取り混ぜた手技療法でやっても上達する筈がありません。本当の患者というものは、私達施術者同志がお互いにやり合うような簡単なものではないからです。

## 三. 心眼を開け

日本指圧協会副会長、現在も指圧学校の講師をしておられる井沢正先生が、機会のあるごとに『指頭に心眼を開け』と繰り返しおっしゃっておられます。本当の治療は指頭に心眼を開くことでもあります。心眼を開いてこそ本当の治療の始まりであり、治療の第一歩が始まったのであります。心眼を開くことによって応用も効き、探究心・会得も続々と誕生してくるとおっしゃっておられますが、本当にその通りです。心眼を開くことによって治療効果はあがるとともに、治療方法も一段と難しさが加わり“千変萬化”の応用技術は一生涯かかってつくせぬ味わいがあると思います。

## 四. 心眼への批評

それでは施術について指頭に心眼を開いたらどんな利徳があるのかと、ケチ

をつける人もあるかと思いますが、実際幾年も治療をやっている大先輩方の中にも「指頭に心眼を開いたからといって治せなかったなら何の役にも立たないではないか」とおっしゃる方がいます。まったくその通りでもあり、またとんでもない愚問の言葉でもあります。なぜかというと、心眼を開いた人でもその使い方如何によっては、例えば精神の入らぬ治療法では効果はありません。また母心でなく鬼心でやったら、それも本当に虚をつかれ、たまげるように悪影響を及ぼしてしまうことは確かでしょう。ただし人格を尊重する治療師としては、意識なしにはそのような失敗をすることは無いと思います。

## 五. 心眼の価値・効果

心眼の治療上の効果の第一には「診断即治療」があります。肌に接したことにより、その異常患部は指頭に鋭敏に伝わってきます。第二に心眼を開くことによって、その会得の前と後を比べたらものすごい開きがあるのは当然です。例えば悪い所をみつけたら、丁寧に指圧・掌圧に重点を置く可きですが、もっと大切なことは我武者羅に押さないで済み、十分治療効果をあげられるということです。したがって施術者としても疲労度が少なく済むのです。例えば患部と思う所を押圧し、指頭の感受する度合いによって、ここはこれ位までの圧で大丈夫とか、ここはこれ以上圧迫したら痛いだけで効果がないということも明らかに判ってまいります。さらに回を重ね、施術に慣れるにしたがって押圧の圧加重の過失も解消し、力度の過不足も少なくなるように上達します。

話は前に戻りますが、かくのごとくで本当の治療法は指頭に心眼を開くことに依って始まり、心眼ができてからが本当の治療に対する勉強の始まりといてよいかと思われまます。次にその効果を一つ二つ挙げますと、小児などの患者は話せないし、あばれる者もあり、長時間の指圧は無理な場合が多いものです。速く適確にその根源を見つけ出すことによって、より簡単に効果を得られます。また夜尿症やてんかんなどにしても一般の常識では及びもつかぬ患部をみつけ、診断に治療にと効果をあげられます。また難しい頸部や腹部施術でも、痛くさせないで圧加減の過不足なく効果をあげることができます。一般治療においても、患部を症候的に見つけだすことができ、その効果はヘッド氏帯のようなもっと変形的な観かたにより、広範囲にわたる帯状反応部位や経状反応部位を、おのれの研究次第によってはどんどん修得できるようになります。またそのような方法で誘導法や遠隔操作を行うと、肩こりや頸部・背腰部などの主要な硬結も、たちまち緩解してくれるものもありまして、斯様な場合に相遇することが度々あります。

## 六. 実技に自信を持って

今日、私の強調したいことは、前述のように日本指圧学校の基本を真剣に実行して、心眼も開き、このように治療効果をあげられるということを言いたかったのでありまして、決して他の方法を用いてはいけないとか、治療効果がないと言っているのではありません。その点、ご承諾願います。

このように初歩当時ほど、指圧学校の基本技術だけではもの足りないと思われがちですが、とんでもない思い違いです。指圧学校の施術方法はしっかりやることによって非常によく効き、患者に対しては無理な刺激がなく、すなわち緩やかに穏やかな効きかたをして、過失ということも皆無に近く、順序手順もよくできており患者をやたらに動揺させるということが少なく、また施術者もやり易くかつどの方法よりも労少なくして力度値を上げられるように工夫されており、非常に立派な基本操作法であります。ですからこのような立派な手技を、自信を持って浪越徳治郎先生の言われる通り「母心」で指圧の真髓を把握するように勤めることであります。

#### 七. 経絡経穴の応用

井沢正先生は指圧学校で漢方概論も受け持っておられる先生ですが、経絡や経穴を無理に覚えなくてもよいとおっしゃっておられます。それは指頭に手掌にと心眼を開くことによって、大して必要ではなくなるからです。しかし不要であるとは一言もおっしゃっておられません。知っているに越したことはなく、たとえ心眼が開けたとしても、経絡を心得ていたらそれは治療効果を一段とあげ、また診断即治療をより一層速断ならしめる要素であることは確かであります。無理に覚えなくともよいという意味は、一般に経絡や経穴にとらわれすぎて、大切な根本治療大極を忘れ、枝葉の治療にばかり走りすぎてはいけないとう、親心からではないかと思われまます。

#### 八. 心眼の開き方

はじめに原始的なもの単純なものほど、その真髓を掴もうとするには、そう簡単にいかない難しさがあると述べましたが、まったくその通りです。それでは指頭に心眼を開くということはどうしたらよいのでしょうか。これはそんなに難しいものではありません、むしろ至って簡単で、ちゃんと指圧の三原則に説明されております。それをそのまま実行にうつせばよいのです。すなわち『垂直圧』『持続圧(2~5秒、容態により2~20秒)』『精神の集中(集合でもよい)』です。このうち皆様が一番重要視しなければならない点は『精神の集中』にあると思います。一押し一押しを心で腹で味わうごとく読み取るごとく、ただこれだけを繰り返すことによって、誰でも心眼の彼岸に到達できるものなのであります。指頭に心眼を開くということは、これは誰でも共有している皮膚の触

覚・圧覚・温度覚などの神経があり、その神経のマイスナー小体、メルケル盤、ゴルジ腱器官などその他の受容器を鋭敏に開眼させることによって始まります。ですから指圧の三原則を実行することによって至極簡単に会得できるのであります。これまでたびたび指頭に心眼を開くと述べてきましたが、心眼に達しますとその効果は指頭だけではありません。解剖学的には触覚小体などの受容器の密度は確かに指頭に多いようですが、心眼が開けてきますと指頭だけでなく、両手首より先の「手掌全体」で感知できるようになるのであります。

このように簡単に得られるものをなぜ求めようとしないのでしょうか。その障害となっているものは何か？あれやこれやとかき集めたり、惑わされ、欲を出し過ぎて迷ってしまうからではないのでしょうか。それゆえに初心者は、この方法一筋に精進努力し、その上でなお求めたければ何なりと求めたらよいのであります。(浪越指圧センターにはこういった指頭に心眼を開いた方々がたくさん勤務しておられます)

## 九. 仏手仏心

以前の校舎の治療室に、浪越校長が中国の筆聖揮毫より贈られた『佛手仏心』という立派な額が掲げられておりました。これなどは本当に心眼の真髄、指圧の真髄そのものを象徴した、意味深い言葉を顕わしていると思います。私毎で失礼ですが、私自身も心眼の彼岸に達するまでには、ある時は強く圧してみたり、逆に弱く圧した時期もありました。また眼を閉じて精神の集中を図ろうとして、先輩に無駄なことだと注意されたこともあります。このように圧加減・持続時間など様々な工夫をしました。ただし指圧の基本三原則だけは実行し、充分こなすことによって心眼が開けてきたのだと感じております。なおこれで満足しているではありません。“業の道は生涯”の諺もあります。千里の道程をまだ一步踏み出したにすぎぬ未熟者でございます。

## 十. 夏期大学の講義

昭和四十四年八月、日本指圧協会第七回夏季大学が箱根三味荘で催された折り、講師として東京教育大学教授の芹沢勝助先生が世界の東洋医学会に出す未発表の貴重な文献を持ち寄られて、スライドに講義にと素晴らしい知識を与えて下さいました。このお話しの中には、間接的ではありますが、指頭に心眼を開く心得といったような道順を、自然科学的にかつ理論系統立てて繰り返し話されておりました。手技療法を扱う者の極意・秘伝・虎の巻といってもよい意味を含んだ立派な講義であったと思われれます。皆々様も指圧の三原則及び基本と真剣に取り組み、これらのことを参考にして頂ければ幸いに存じます。

終わりに

歩みでは歩みでは彼の岸にぞ至る 人の手のめざめ彼の岸にぞ至る

一日も早く皆様の指頭に心眼を開かれるよう念願するとともに、僭越ながら多少でも参考になればと思い、この拙文をしたためました。

昭和四十四年九月 佐藤利吉